

地域版 長野 3 区

発行区域

飯田市
伊那市
駒ヶ根市
下伊那郡
上伊那郡

2006年1月1日

発行元

民主党長野県第5区総支部

〒395-0051 飯田市高羽町3-4-6

TEL 0265-22-2480 FAX 0265-23-4498

E-mail minsyu.5@mis.janis.or.jp

加藤がく 次期衆議院選での公認候補者に内定



前原代表と力強く握手を交わす加藤がく

2005年11月22日、民主党本部において第353回常任幹事会が開催され、衆議院第一次公認内定候補者54人（前職35名、新人19名）が決定された。総選挙後わずか2ヶ月半で次回選挙の公認候補者を発表するのは異例のこと、政権交代に向けて「常在戦場」の精神で支持基盤を固めていく党の方針が示された。

前回総選挙よりわずか2ヶ月半
他の選挙区に先立ち第一次公認

公認内定者の決定は先の常幹で決定された「候補者選定基準」にもとづいて選定された。小選挙区で勝てる候補者を立てるなどを原則に、65歳以下で2回連続小選挙区で敗れていないことが条件となった。長野5区では、公示1ヶ月前の立候補表明にも関わらず、大逆風のなか前回候補者より2000票ほど伸ばしたことが評価され、新人の加藤がくが県内の他の選挙区に先立って第一次での公認内定を受けた。

民営化教に

民営化教は

淘汰の論理

ては国に任せたほうが効率的な場合もあります。公共サービスの中身をしつかり吟味し、サービスの担い手を国、地方、または民間企業にどのように振り分ければ、最も効率的な政府運営ができるかを議論するのが眞の改革です。「民営化」の題目を唱えるだけの現政権の「民営化教改革」は、政府の役割をそぎ落として責任逃れをしているにすぎません。

第一陣の戦士としていち早く公認内定を受けたことに大きな責任を感じております。次回での雪辱を果たすべく、一層身を引き締めて日常の活動に力を注いで参ります。

「淘汰の政治」から「共生の政治」へ。

加藤がく決意表明

「小さな政府」という概念は本来、公共サービスの質を落さず、いかに効率化するかということです。単に財政規模を小さくし民営化すればいいという問題ではありません。

競争によつて強いものが生き残り、弱いものは死んでい
き、や場所にその後の人生が規

弱者・地方切り捨ての淘汰の政治では、伊那谷の未来に明るい展望は描けませ
ん。都市と地方、日本と隣国、お年寄りと子供たちがお互いにバランスの取れた負
担と緊張関係をもって挑戦し共生できる社会を実現するため加藤がくは次なる戦
いに挑みます。

全な競争の土台に乗せていく地道な仕事が政治なのです。

共生の社会へ

誰もが挑戦できる

定されてしまわないために、そして、失敗しても何度でも挑戦できるように、環境を整えることが政治の役割な

伊那から政治再生 若い志を求む

2006 伊那市議会選挙 候補者を公募

伊那谷からしがらみのない新しい政治の狼煙を上げるために、民主党は2006年3月の伊那市合併に伴って4月30日に行われる市長・市議会議員選挙において、候補者擁立を目指すことになりました。民主党が目指す市民参画型分権社会の実現という理念に共鳴し、地方政治から日本を変えていきたいと願う新しい政治家を生み出していくため、民主党長野県第5区総支部では伊那市議会議員候補者を公募いたします。選定された候補者につきましては、民主党が様々な選挙サポートをいたします。積極的なご応募をお待ちしております。詳しくは、民主党長野県第5区総支部にお問い合わせ下さい。(担当:久保田)

加藤がくの生い立ちをご紹介します

1968年12月17日 建具屋の次男坊として生まれる。現在37才。

1975-81年 上田市立中塩田小学校。野球と工作が大好きだった少年時代、親父の仕事の手伝いもよくやりました。⇒写真①10才／荷を積むときに建具を押さえているのが役目でした。(後ろで運んでいるのが若い頃の親父)

1981-84年 上田市立塩田中学校。軟式テニス部に所属。毎年クラス長をしていました。

1984-87年 長野県上田高等学校。山岳班に所属、信州の山々を愛す原点となりました。⇒写真②15才／槍・穂高縦走。真夏に5日間風呂に入らないのは辛かった…。(右側手前)

1988年 早稲田大学商学部に入学。美術研究会に所属、芸術家気取りの学生でした。⇒写真③20才／好きな歌はなぜか70年代フォークでした。(『サボテンの花』を熱唱中)

1993年 NHKに入局。広島放送局の報道番組ディレクターとして、平和問題、アジア関連の様々な番組を制作。⇒写真④25才／1994年広島アジア大会の中継スタッフでした。(右側手前)

1996-98年 アジアのパワーの源に迫りたいと思い、マレーシア国立マラヤ大学経済学部大学院に留学(経済学修士)

1998-2001年 英国ロンドン大学SOAS経済学部大学院博士課程に留学。

2001年 日本貿易振興機構アジア経済研究所に研究員として入所。専門は東南アジア政治経済、援助政策、アジアの森林・エネルギー問題。⇒写真⑤32才／インドネシアの秘境トラジャ、地場産業の視察で出会った手織物店の看板姉妹。

2004年 国際機関・国際林業研究センター(インドネシア)に出向、違法伐採問題を研究。

2005年9月 民主党候補者公募を経て、第44回衆議院選挙(長野5区)に立候補。10月、国会議員政策担当秘書資格を取得。

拡げよう支援の輪

あなたのお力を貸し下さい

加藤がく後援会は飯田市を拠点として活動していますが、まだ十分な支部組織ができていません。加藤がく支援の輪をあなたの町に拡げていただける方のご協力が必要です。あなたの連絡をお待ちしております。

加藤がく後援会長 中島 衛

TEL 0265-22-2480 FAX 0265-23-4498

E-mail minsyu.5@mis.janis.or.jp

伊那谷を再生させる 加藤がく 5つの提言

1 消費税・ガソリン税を地方財源に

都市部と地方の所得格差が進む中、所得ベースの住民税が地方の主財源では、地方の収入は減少するだけで財源移譲は進まない。その代わり、消費税を地方財源に切り替えて安定的な財源を確保すると同時に、ガソリン税も地方財源に移行して地方の裁量で道路整備を行えるようにする。

2 二酸化炭素(CO₂)排出権の国内取引 バイオマスエネルギー利用の推進

農地と林地の財産を実質的経済価値に転換するため、農業、森林保全で増加するCO₂固定量を他の産業で出されたCO₂排出量と交換する排出権ビジネスを推進すると同時に、バイオマスエネルギーの利用で、農業、林業を再生させ、伊那谷を循環型社会の先進地とする。

3 飯田線の高速・複線化 駅周辺の街づくり

伊那谷は首都圏への交通アクセスが遅れている地域である。アルプスのふもとらしいきれいな空気を維持し、高齢者の交通を確保するためにも、岡谷駅から飯田駅までの鉄道を再整備し、駅周辺の商店街に人が集まる環境を作り出す。

4 教育県・長野の復活 公立学校の再生

教育費負担の増大は少子化の一つの原因となっている。次世代の人材を地域で育成するため、負担が少なくて質の高い教育が受けられるよう、公立学校の教育内容の改訂、中高一貫校の設立など、学校の主体性を高め、地域住民と一体となって教育改革を進める。

5 ODA庁の設立 アジアの中の日本へ

日本の外交は非軍事分野を主軸とした国際貢献である姿勢を内外にアピールするため、援助事業を一元化するODA庁を設立しその戦略性を高める。米国追従型の外交から脱却してアジアに軸足を移し、域内の安全保障、経済連携を東アジア共同体の枠組みで進める。

